第28回WARD総会の概要

2019年6月30日（日）13時30分～　神代植物公園植物会館2F
参加者　８名

Ⅰ　2018年度活動報告

1．　5月12日　緊急会議
2．　7月28日　定例会
3．10月 6日　ニュースレター発送作業
4．12月 2日　総会･懇親会
5．　2月16日　定例会

※内容：会の運営について検討、ユネスコとの連携について検討、ニュースレター作成、HP更新

Ⅱ　2019年度活動方針

1．WARD存続のための体制を整える
2．WARDの意義を宣伝し、仲間を増やす
3．未来を奪われている子孫の存在を示し､その権利を主張する
4．子孫の視点から問題を提起し、解決策を提示する
5．「時間の物差」(時間軸)を普及し、「縦の平等」を推進する

Ⅲ　2019年度活動計画

1．ユネスコ協会との連携を検討し、実施する
2．会の活動について会員から意見を集め、積極的に採用することにより会の活性化を図る
3．会員各々がWARDの活動として、自らが置かれている状況の中で、子孫の代理人としての役割（子孫の立場で考え行動する）を果たす

Ⅳ　日本ユネスコ協会連盟事務局事業部の尼子美博主任から日本ユネスコ協会連盟についてスライドを用いご説明頂いた。またユネスコ協会の歴史的に貴重な動画も上映され理解を深めた。

Ⅴ　会計報告

収入	予算	決算	備考
繰越金	187,354	187,354	
会　費	260,000	215,085	
寄付金	400,000	400,000	
雑収入	10	13	利息等
合　計	847,364	802,452	

支出	予算	決算	備考
会報費	200,000	96,728	印刷､発送､原稿
会議費	50,000	30,513	借室料他
事務所費	360,000	360,000	借室､光熱水
消耗品費	5,000	0	
通信費	40,000	40,000	電話･郵便他
交通費	10,000	0	
印刷費	5,000	0	コピー他
宣伝費	100,000	78,539	ホームページ
雑　費	5,000	6,422	手数料他
繰越金	72,364	190,250	
合　計	847,364	802,452	

Ⅵ　新役員

会　　長：松香光夫
副 会 長：永井伸一
事務局長：田中国智
理　　事：榎本ひとみ　藤田暁生　峰岸勝昭　大沢　力
干場英弘　田中淳夫　斉藤光弘　佐藤　勝
平野のり子　市川直子　塩瀬　治　鈴木健司
加藤正彦　南　勲　吉永喜美子　田中國之
田畑智子　渡辺　宏
監　　事：佐藤寛治　田口謙司　平田洋一

スローガン

―子孫代理人から現代人（自分を含む）への呼びかけ―

1．子孫が生きられる環境と資源を残して下さい！
2．負の遺産（有害物､借金）を残さないで下さい！
3．環境と資源の価値を経済に組み入れて下さい！
4．全ての価値判断は、現時点ではなく、子孫に及ぶ時間で行って下さい！
5．資源循環型社会を築き、資源を保全し、環境を改善して下さい！
6．自然に逆らわず､自然を活用して下さい！
7．戦争は止めて、軍事費を縮小し、地球環境防衛に注力して下さい！
8．世界を１つにして、環境改善と資源保全を地球一元で進めて下さい！
9．未来の人達を苦しめる｢原発｣を廃止して下さい！

お知らせ

◆ WARD総会のお知らせ ◆

第29回WARD総会を下記の通り開催いたします。
今回は国際環境教育基金日本事務局の協力を得て神奈川県鎌倉市にて総会を行います。

鎌倉の由比ヶ浜海岸はこれまで4年にわたり国際環境教育基金本部（デンマーク）より持続可能な、環境にやさしいビーチとして認定され、毎夏認定の証として、ブルーフラッグをビーチに掲げています。今回は総会後、日本代表の伊藤様と湘南地域で海の環境保全運動をされているNPO法人湘南ビジョン研究所・理事長の片山様に話を伺うとともに、実際に由比ヶ浜にて、環境保全活動のご指導をお願いしています。

当会では多摩川にて環境保全活動、里山にて植林、下草整備、日の出にてごみ処理場の見学など野外活動をこれまで行ってきました。鎌倉は鶴ケ丘八幡宮はじめ、名だたる名刹もあり、総会前後に散策なさるには格好の場所だと考えますので是非ご友人ご家族をお誘いあわせの上ご参加いただきますようよろしくお願いいたします。

なお、昨今の新型コロナウイルス感染症の状況によって、変更もあり得ますのでご了承ください。

記

＊日　　時：2020年9月27日（日）　13：30～16：30
＊会　　場：鎌倉市由比ヶ浜海岸
シードエージェンシー３階　会議室
鎌倉市由比ヶ浜2-22-11　　電話：0467-61-2525
URL:　https://seedagencyinfo.jp
横須賀線　鎌倉駅　　徒歩15分
江ノ電　　由比ヶ浜駅　徒歩5分
＊プログラム：13:20　開場
13:30　開会　総会 議事
14:00　講演　国際環境教育基金の活動について　伊藤様
14:30　講演　鎌倉由比ヶ浜の環境活動の取り組み　片山様
15:00　活動　由比ヶ浜海岸での環境保全活動　伊藤様　片山様
16:30　閉会　全員でスローガン唱和ののち解散
＊当日の緊急連絡先
事務局連絡先　090-9537-7566
090-9340-2939

＊お 願 い：今回は外部から講師をお願いしたため一人1000円の会費をお願いいたします。
なお、対象は大人のみとさせていただき、学生以下の参加者は無料とします。

◆ 会費納入のお願い ◆

2020年度の会費納入の郵便振替用紙を同封させていただきました。
WARD創立以来25年にわたり故渡辺会長のご意志により正会員の会費を年間一口千円以上としてまいりましたが､昨今の諸経費高騰の折､正会員の方は1口(2千円)以上､賛助会員の方は1口1万円以上とさせていただきたいと存じますので､ご理解､ご了承の上､是非会費納入にご協力のほどよろしくお願い申し上げます。
なお､領収書は振込み時の領袖控えで替えさせていただきます。

会費納入方法
A．銀行振り込み　みずほ銀行・自由が丘支店　普通2286776
加入者名WARD
B．郵便振替　　00100-3-659238　加入者名WARD

WARD　53号（2020年7月15日発行）
発行人　　松香光夫　永井伸一　　定価150円
編集人　　田中國智
WARD事務局　〒152-0003　東京都目黒区碑文谷5-4-21
TEL ０３－５７２１－１９９２　FAX ０３－５７２１－８３８３
http://www.ward-ngo.com

WARD ウォード
World Association of Representatives for Descendants
―世界子孫代理人会―
to descendants

WARDの活動を広げましょう

令和という新しい元号を得て、心新たに子孫のために何ができるかを考えたいと思います。故渡辺英男会長の思いをたどって､私に何ができるかを考えながら､１８年､１９年の会報でも取り上げてきたつもりですが、より大勢の方にも同行していただける道を求めながら、国連の教育科学文化機関（ユネスコ）にたどり着きました。

私自身は以前から母校の玉川大学にも関連の深い「まちだ・さがみユネスコ協会」に所属していましたが、ユネスコが２０１５年から２０３０年までに達成するべく１７個の持続可能な開発目標SDGs（エスディージーズ）を掲げているのをご存知の方は多いと思います。これを挙げておきますので、身近な問題から、地球レベルの取り組みまで、自分自身に関わりの深いテーマとして捉え、取り組んでいただけたら良いと思います。WARDとしても、皆さんと一緒に取り組む共同テーマにもしたいですが、お仲間と一緒に取り組む活動として、こんなことをやっています、あるいはやりましたという経験をお知らせいただけませんか。

会長　　松香　光夫

1．　貧困をなくそう
2．　飢餓をゼロに
3．　すべての人に健康と福祉を
4．　質の高い教育をみんなに
5．　ジェンダー平等を実現しよう
6．　安全な水とトイレを世界中に
7．　エネルギーをみんなにそしてクリーンに
8．　働きがいも経済成長も
9．　産業と技術革新の基盤をつくろう
１０．人や国の不平等をなくそう
１１．住み続けられるまちづくりを
１２．つくる責任つかう責任
１３．気候変動に具体的な行動を
１４．海の豊かさを守ろう
１５．陸の豊かさも守ろう
１６．平和と公正をすべての人に
１７．パートナーシップで目標を達成しよう

参考資料：
村上　芽、渡辺珠子 (2019)「SDGs 入門」日経文庫

コロナ後、ミツバチと共生する社会を目指して

2006年3月銀座のビルの屋上でミツバチを飼って直ぐに渡辺英男さんと出会った。それからは常に困った事があれば渡辺さんに相談を繰り返していた。今もしご存命ならば、コロナ禍のこの状況をどうアドバイスしてくれただろうか。

この数か月間、不要不急が叫ばれている中、屋上で養蜂作業をしていることにどんな意味があるのか自問していた。大学やデパートなどが閉鎖されて今年は中止となるミツバチプロジェクトが多数出てきたからだ。

この間、人と人とがなかなか接点を持てないために全国に広がったミツバチプロジェクト仲間とウェブで会議を開始し、コロナ後の社会について自分たちの役割を議論している。札幌、名古屋、大阪とそれぞれに特徴のある団体との協働は、既に10年を超えている。

今アーバンビーキーピングが世界中に広がっているが、単に蜂蜜を取るだけでなく地域に蜜源植物となる花を植え、子供たちには命の環境教育をしながら全ての人が自然の営みに謙虚となる事を伝えている。このネットワークの力がきっと将来役に立つ時が来ると考えている。

ここから2つの特徴的な事例を紹介したい。2011年東日本大震災の原発事故を受けて私達銀座ミツバチは、2018年に福島市荒井に長年耕作放棄されていた畑を購入して蕎麦を植え、その上に発電所を作った。翌年は会津美里町の特別養護老人施設の屋根を借りて2つ目のソーラー発電所を作った。福島からの再エネはとても意味があると考えている。

福島市荒井ビーガーデン発電所
ソバ畑の様子

この縁でNPOに会津電力、飯館電力、みんな電力、そして徳島地域エネルギーと再エネを目指す皆さんが入会。その一つ、徳島地域エネルギーでは徳島市隣にある佐那河内村で田んぼの上にソーラー発電を乗せ農薬を使わないブランドのコメ作りを始めたが、今年からこの下でミツバチも飼い始めた。小水力発電所も合わせて稼働させ、ここから上がる収益で村中に蜜源植物を配り再エネとミツバチの里を作るユニークな事業が動き出したという。原発や化石燃料はダメ、農薬反対と唱えるだけでなく、今の時代は市民が行政を巻き込んで自分たちの手で地域をデザインしていく時代となった。今回のコロナ禍で思い知った食と環境、合わせてエネルギーの大切さ。ここにミツバチが重なり今まで私たちが気づかなかった新しい持続可能な社会のあり方が、目に見える形で動き出す。今後この形が加速しそうだと考えている。

次の事例は、WARDでも紹介されたアフガニスタンで医療や用水路で貢献する日本のNGOペシャワール会だ。漠々とした乾いた大地に水を引き既に100万本の植樹を終えた。そして次の目標が養蜂だ。代表の中村哲先生が銀座で講演して頂いたときに屋上の養蜂場をご覧になって「荒れた大地から緑の沃野に変わった場所へ60万人が戻り生活が始まったが、次は所得の向上と健康のために養蜂を始める」と仰っていた。そして2019年50箱から始めた養蜂から無農薬のオレンジと砂防のために植えたマメ科のビエラからハチミツが採れたと連絡を頂いた。次の目標に動き出した昨年12月、中村先生は銃弾に斃れてしまったが、その遺志を継いでこの春も確実にミツバチたちは空を舞っている。

渡辺さんが生前警鐘を鳴らし、そしてミツバチと共生する社会がその障害を取り除くと仰っていたことが、いたるところで実例として動き出している。

すでにその解決の方法は見えてきた。次代の命のために健康、環境、そしてクリーンエネルギーと幅広い分野をリンクさせて、世界の仲間達と分断するのでなく協力しながら新しい社会の仕組みづくりを進めていきたい。その為には多くの知見が必要だ。

私たちミツバチプロジェクトはWARDの皆様と次の持続的社会を目指す努力していきたいと願っている。

NPO銀座ミツバチプロジェクト
理事長　田中　淳夫

ペシャワール会から養蜂現場の報告とその植樹の様子

グレタ・トゥーンベリさんは子孫のために闘いを始めました

＜気候のための学校ストライキ＞をきっかけに世界のメディアで注目を集めているスウェーデン人の少女のことは皆さんもうご存じかと思います。

彼女は言ってます

「この危機を知っている人たちは何十年もの間、見向きもしませんでした。誰のことを指しているのかわかりますよね。見向きもしなかったあなたたちです。ほとんどすべて、あなたたちのせいです。私たち若者のせいではありません。この世に生まれたら、すでに危機がおこっていて、残りの人生をこの危機といっしょに生きなければならないのです。私たちの子供もその子供も同じです。未来の人たちも同じです」

そうしてグレタ・トゥーンベリさんは2018年8月、お父さんに買ってもらった板切れに、白いペンキを塗り＜気候のための学校ストライキ＞と書き、自転車に乗ると、国会議事堂のまえに到着し座り込みました。おしまいにツイッターとインスタグラムに、写真と動画をあげました。それは即座に矢のように広がっていきました。

その後のグレタさんの活動はさまざまメディアで報道されて多くの人が知ることとなりました。

先日「グレタ・トゥーンベリ」(金の星社)が刊行されました。児童書です。解かりやすくページ数も多くなく、とても読み易い本です。是非とも手に取ってください。この記事もここから抜粋させていただいてます。グレタ・トゥーンベリさんの言葉に解説はいりません。なぜならそのことばたちは、私たち大人たちが見て見ぬふりをしてきた大きな罪を告発するリアリティを突き付けているからです。

最後に彼女の言葉から。

「気候変動が取り返しのつかないことになるまで、あと10年。その頃私は26歳です。私達のほとんどは20代です。素敵な年ごろだといわれます。人生のすべてがその先にあるからです。そういわれるほど素敵な年ごろなのか、わたしにはわかりません。なぜなら私たちの未来は売られてしまったからです。ほんの一握りの人たちが、想像できないほどお金を儲けるために私たちから未来を奪ったのです」

(「グレタ・トゥーンベリ」より)

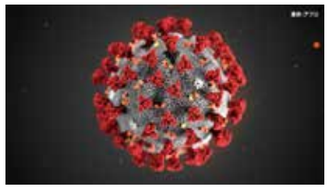
斎藤　光弘

新型コロナウイルスから学ぶこと

令和という新たな年号となって久しいが、令和２年つまり2020年は新型コロナウイルスの年として歴史に記録されることだろう。

これからお盆休みやシルバーウィークといった長期休暇に突入しその時に外を出歩くに最適な気候だとしても、ソーシャルディスタンスを意識しステイホームを率先する。2020年はそんな１年になる。旅行業を生業としている私からすればまさに悪夢である。戦々恐々と震える日々を送るしかない状況だ。私は今年で33歳になるが、人生を通じてここまで世界に影響を与えた事案を経験したことはない。アメリカでの死者数は5月25日の時点で97000人を超え、この数字はベトナム戦争の死者数すら上回っている。まさに異常事態といえるであろう。

戦争は人により行われ、人により制御することが可能だが、新型コロナウイルスは人が制御できる領域を超えている。これまで以上に科学が発達すれば人類は自然すらコントロールできると思う人もいるかもしれないが、それは全くの傲慢であると新型コロナウイルスにより否定されることとなった。ウイルスのパンデミックを制御できない人類に地球温暖化というパンデミック以上の自然変動が制御できるはずがない。皮肉にも今回のパンデミックにより社会経済活動は縮小し、大気汚染物質の濃度が下がったことが現場観測や人工衛星からの観測によって把握された。また、大気汚染物質だけでなく温室効果ガスである二酸化炭素排出量も大幅に減少したことが明らかになっている。コロナウイルスが猛威をふるったイタリアではロックダウンの結果、ヴェネチアの運河の水が透明度を増しクラゲが泳いでいる姿が目撃されたという。所変わってインドではなんと30年ぶりにヒマラヤ山脈をはっきりと見ることが出来たという。



これらの事例は我々が営んでいる日常生活がいかに地球環境に悪影響を及ぼしているかを如実に物語っている。

これほど世界規模で被害が発生している今だからこそ人類は自然の力と脅威について真剣に向き合うことが出来る。経済活動を元に戻すことも重要ではあるが、大気汚染物質の排出まで元に戻してはならない。パンデミック収束後にもヒマラヤ山脈を拝み、ヴェネチアの運河にクラゲが泳ぐ持続可能な世界の構築に向けて科学者と民間企業が協力し気候変動とコロナウイルス両方の問題を解決していくことを切に願う。

平田　洋一